



災

害時は行政などが援助を行います。それには限界があります。そんなときに頼りになるのは、自分の身は自分で守る「自助」と、地域のひとたちで助け合う「共助」の力。まずは自分の身を守る。その上で、自分が住む地域は地域みんなで守ることが大きな力になります。あそこは災害が起きたとき危険な場所かもしれない、あの家には自力での避難が難しい人がいる、などと事前に共有しておくことが重要。日頃からコミュニケーションを取り、いざというときの助け合いの体制をつくりましょう。

不安な気持ちをサポート 助け合い制度を利用して

要介護者や障害者を対象にした、避難行動要支援者制度があります。

稲葉 和弘(左)・栗原 弘一(右)
防災アドバイザー

熊本地震で学んだ
個々の力の大切さ



熊本地震で学んだ 個々の力の大切さ

熊本地震から一カ月後に被災地へ。被災者の健康相談などに携わりました。一カ月が過ぎても避難所の混乱は続いていて、職員だけでは全く人が足りず、避難者が自力でどうにかしなければならぬことだらけ。こういうときこそ、地域のつながりが大きな力になると実感しました。災害時、この地域はどう動くべきなのか。日頃から話し合い意識しておくことで、災害時やその後にも役に立つはず。

健康増進課 樋口 早苗
保健師



熊本地震レポート



日頃から防災意識を

地震が少ないと言われていた熊本。そんな地域でも大きな地震が発生しました。災害はいつ起こるか分かりません。常に防災意識を持つことが、自分の身を守る第一歩です。



危機管理室
小平 冬人

災

害が起きたときに自分が行くべき避難場所、把握していきなさい。自分一人で避難できる心配、と思う人もいるかもしれませんが、そんなときに、避難行動要支援者制度に登録しておく安心です。災害時に自力で避難することが困難な障害者や要介護者などを、地域での助け合いで安全に避難できるようにするこの制度。登録された個人情報や自治会や警察署、市の関係する部局などに提供し、地域全体で支援する体制をつくりまします。これにより、どこに手助けを必要としている人がいるのかを地域で事前に把握することが出来ます。



が困難な人
個人情報の提供先
自治会(自主防災会を含む)、民生委員・児童委員、警察署、消防団、社会福祉協議会、市関係部局(福祉

自主防災会の活動を支援します

自主防災会や地区自治会連合会が行う訓練に掛かる経費を補助します。対象になるのは、避難訓練や消火訓練などで使う防災資機材、炊き出し訓練の食材経費など。交付金額は5万円までで、自主防災会は年2回、自治会連合会は年1回まで交付します。

また、防災アドバイザーによる防災前講座を行っています。自主防災会や学校などで、自然災害や自主

地域の防災力を高める

前橋テルサの2階ホールで、地域防災力の向上をテーマに講演会を開催。最新の防災・減災の取り組みや平時の備えを学びます。

日時= 8月26日(金)午後3時~5時



講師=長岡造形大准教授・澤田雅浩さん
申し込み=当日会場へ直接

防災に関する講座などを実施。詳しくは問い合わせてください。
建築物も日頃から防災確認を
8月30日(火)から9月5日(月)までは建築物防災週間です。多数の人が利用する建築物は、建築指導課職員と消防署員などが立ち入り検査を実施します。所有者や管理者はいつも適法な状態に維持するよう努めてください。
固 建築指導課 ☎027-898-6753

防災ラジオの試験放送を実施

防災ラジオは、大規模な災害が発生、または発生する恐れがあるときに自動的に起動し、まえばしCITYエフエム(84.5MHz)から災害情報を大音量で放送するもの。同局で販売しています。

このラジオの試験放送を9月1日に行います。実際の災害と間違わないよう注意してください。

日時= 9月1日(休)午前10時



危機管理室
室長 栗原 和彦